

第21回 DAAS運営委員会

1. 日 時：2012年6月29日（金） 午後2時～午後3時30分

2. 場 所：ソーシャルインキュベーションオフィス SUMIDA セミナー室

〒100-0014 東京都墨田区本所 3-15-5 1階 Tel: 050-3786-0568

3. 出席者 敬称略 順不同

運営委員長：三塩（日本設計）

委 員：今倉委員（日本建設業連合会）、早川委員代理安生暁氏（日建設計）、
本多委員（山下設計）、渡辺委員（積水ハウス）、鈴木委員（日本建築士会連合会）
柴田委員（日本建築センター）、笠委員（建築学会）、

事務局：武藤

4. 配布資料：

資料 1 第7期総会資料一式

5. 議事：

6.

■承認事項

【議案1】 第7期総会資料承認の件

資料に基づき、事務局より第6期事業報告、収支報告等の説明を行った。

また口頭にて、来年オープン予定の文化庁の仮称：国立近現代資料館について、
企画提案に伺った件を説明した。

【以下、意見等】

（笠）国立近現代資料館（仮称）についての補足説明として。委員会が文化庁にあり鈴木理事長が座長である。私も委員であり、理科大 山名氏など委員である。どのようなことをするのかということは内容として固めてきているが、運営主体がどこになるか、というと全くわからないということもある。委員に国立西洋美術館 青柳先生も入られていたが、国立西洋美術館、あるいは国立系の美術館に運営してもらうのが一番良いのではないか、という話だったが、美術館のため建築資料についての理解がない、アーカイブではなくて、美術館として集めるということになって運営先が決まらないと言うことになっている。委員会には、しばらく連絡が内状況であった。DAASの話については少し驚いているところである。また仙田氏が会長を務めている JIA アーカイブ委員会は、J I A - K I T 建築アーカイブスの運営についての議論をしている委員会である。仙田氏が問題としているのは、J I A の委員会にしておくと、委員の任期があるため、2～3年で委員が交代をすると継続性がなくなってしまうということである。我々もそのような経験をしており、委員が交代するごとに最初から説明が必要となり理解してもらうということになる。そのため、委員会組織ではなくて、JIA がやっている NPO として J I A - K I T 建築アーカイブスの運営をしてはどうかという話であった。そうするとアーカイブスの記録・保存

だけでなく、資料を活用した出版事業などをやるようにすればよいのではないか、という考えである。先日の JIA 理事会で説明をしてきたところである。そのような状況である。

(事務局) ポイントとしては委員会制度で運営していくことの限界がある、ということであらうか。

(竺) そうである。運営を安定させるというところである。理事会としては事業の意味と言うところでは理解しているが、何故 NPO なのかというところが論点である。

(事務局) JIA アーカイブ委員会、文化庁の(仮称)国立近現代建築資料館がそれぞれ動いており、また DAAS についても認識して頂いているため、その辺りをどうつなぐか、というところではないかと考えている。事務局でも情報を確認していきたいと考えている。

(事務局) 収支報告書の繰越金については、9 月末時点での金額は訂正になる予定である。また保守費支出については慶應義塾大学で保守、管理を行っていたサーバーの保守費分がなくなった為、180 万の金額はレンタルサーバーの移行費用、新規機材購入に充当された。その他固定資産取得収入は、表彰事業における保証金の返金があったためである。会費については未収が 1 件、手続きは保留となっている退会希望会員が 2 社となり減額となっている。

(竺) コンテンツ有償利用の先はどのようなところだろうか。

(事務局) 新聞・雑誌への掲載、ハーバード大学での展示、建築家の企画展等の利用であった。新建築への問い合わせにより DAAS を紹介して頂くというケースが多い状況である。

■報告事項

山下設計 本多委員よりご紹介頂き、DAAS について日刊建設工業新聞に掲載されたことについての紹介を行った。

以上